

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400046		
法人名	有限会社スマイルケア		
事業所名	グループホームゆとり		
所在地	玉野市玉原2丁目17-21		
自己評価作成日	平成26年12月12日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心が躍る誇りある暮らし」という理念に添って利用者にとくさんの笑顔や個々を尊重できる生き生きとした生活を支援しています。行事には職員が手作りの寸劇や敬老会、のど自慢大会など明るく楽しい会を行いましたボランティアの受け入れをし涙や笑いの絶えないあたたかな雰囲気づくりにつとめています。利用者様からは美味しいと声が上がっている手作りの料理で温かなものを出している。手作りの料理は利用者様と一緒に作りながらワキアイアイとやっています。笑顔、挨拶、清潔をモットーに日々全力を出して努めています。利用者様に対しての明るい元気な声かけや家族さんや来所された方々に対してのありがとうございますの挨拶などスタッフ一同頑張っています。皆に気持ちよく過ごしていただくために廊下や居室、ホールなどピカピカに磨いています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ボランティアや見学を受け入れ、地域行事や地域の清掃に参加し、運営推進会議等地域に開かれた事業所として運営されています。清潔・安全で居心地よい環境整備と手作りの食事などで家庭的な日常生活を大切に支援に努めています。又、外部研修を通して職員の資質向上への後押しに取り組み、暖かい雰囲気づくりが窺えました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成28年1月25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲げている。行事等の目標にも理念を掲げスタッフ全員が共有し、達成できるように努めている。	理念(心が躍る誇りある暮らし)を掲示し、日々のケアや行事に活かし、実践につなげています。またスタッフは年初に目標を設定し、半年ごとに振り返り、会議で話し合って成果を確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出や散歩に出た時には、こちらから積極的に挨拶を心がけている。祭りや掃除などにも参加をしている。幼稚園児の訪問もあり元気をもらっている。	道路を隔てた公園での行事(桜祭り・夏祭りなど)に積極的に参加し、町内の清掃、散歩時の挨拶、幼稚園児の来所、各種ボランティアの受け入れ、見学など、地域とつながりを持ちながら交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア活動は月に1回は受け入れており、地域の方の見学も積極的に受け入れ理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回は運営推進会議を行っており現状報告や取り組み課題などによる意見交換を行い、サービスの向上に生かしている。	家族・民生委員・地域包括支援センターなどの参加で2ヶ月毎に開催し、スタッフ全員が順番で会議に参加しており、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年に1回のグループホーム連絡協議会はなくなったが何かあれば連絡があり集まって意見交換している。 ファックスなどでも情報を得ている。	運営推進会議などで話し合い、日頃からの電話やFAXでのやり取りを通じて、良好な協力関係が築けるよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年同様ベッド柵を2本する場合は家族の同意書を作成し書面を残している。 玄関の施錠は家族への安心とつながっている。命、保護という観点を考えながら取り組みたい。	マニュアルや研修(報告で共有)で話し合い、スタッフ間での意識統一を図っています。言葉使いや態度など、気付いたときに注意し合い、安心・安全のケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修があれば積極的に行き、学ぶ機会を増やしている。全体会議では利用者の状況報告もあり、皆と話合える機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の中には部分的に学ぶ機会はあるが成年後見人制度の話合いはまだない。学ぶ機会をもっと持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明している。わからない点があれば納得できるように説明している。退居に至る場合は家族と共に話し合いをして理解をえている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所時には温かい雰囲気づくりをしており、気軽に何でも話せるように努めている。意見や要望があればスタッフで共有し全体会議などで話し合っている。	運営推進会議・面会時・電話・手紙など、コミュニケーションを大切にしながら家族から話を聞き、入居者に寄り添って意向を汲み取り、スタッフ会議で話し合い、それらを反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員の意見を聞いており、必要に応じて全体会議で取り入れ、全員で話し合いができるようにしている。	管理者は対話を心がけ、会議で取り上げ、職員の意見や提案を全員で話し合うよう努めています。外部研修の機会が均等に確保されており充実しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等にはほぼ全員のスタッフが研修に行かせてもらった。職場環境・条件などもこれからの課題と思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にはとても配慮してもらっている。全体会議でも発表し職員の勉強となっている。国家資格にも何度でもトライできるように配慮してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネの会を通じて交流し勉強をさせてもらっている。サービスの質を上げれるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族も含めて面接し、しっかりアセスメントを行っている。不安や困っていることなど細かく聞き関係づくりを深め安心を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていること、要望等はしっかり聞き深い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が何を必要としているのか会話などから思いを読み取りサービスにつなげていけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれに教えてもらったり、相談にのったりするなどお互い様の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より本人の様子は家族の来所時に報告している。来所できない時には手紙や電話でも知らせている。利用者様には自分の父母と思い家族との絆も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や外出した時には、知り合いの方から声をかけてもらっている。古くからの知り合いの散髪のボランティアの方には今でも来てもらっている。	家族や友人が訪ねて来たり、古い付き合いの散髪屋さんの来所、買物や外出時の出会い、事業所内にも新しい顔なじみが増え、「いつでも来て」と声をかけ、継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いに居室を行き来している。笑顔で話をしたり、お茶や食事の時には楽しい場面になるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院したり他の施設に移ったりした場合は看護・介護添書を渡し情報を提供している。退居後の生活についても病院や家族との連携を図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中でしっかり声かけをさせてもらい、本人からもじっくり話を聞いている。言葉や表情、態度からも把握できるように努めている。家族からも話を聞き情報を得ている。	一人ひとりに向き合い、じっくりと話を聞くよう努めています。家族からの聞き取りなどで、その人らしい暮らしができるよう、スタッフ間で共有しながら把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時にはしっかりと話を聞き家族からも生活歴の情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録をしっかり書くように努めている。本人が言った言葉やスタッフがどのように対応したかなど。業務日誌にも記入し現状の把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	よりよいケアを築く為本人や直接かかわるスタッフより話を聞き、家族が来所されれば意見を聞いたりするなどしている。なにかあればスタッフ間の連絡ノートも活用し反映できるようにしている。	本人・家族の意向を踏まえ、医療・看護の情報を組み込み、スタッフの意見や連絡ノートなども参考に、カンファレンスで話し合い、現状に即した介護計画の作成に努めています。	アセスメントとモニタリングを繰り返し、利用者の視点に立ち、本人・家族・関係者がチームとなって、それぞれの意見やアイデアを反映し、本人本位の介護計画作成を期待しています。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や本人が言った言葉を直接書き込みスタッフがどう対応したのかなど記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事の面やその他本人や家族の状況に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーに買い物に行ったり、公園を散歩したりするなど楽しめるようにしている。訪問理容なども活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。家族と協力しながら適切な医療を受けられるように支援している。病院の往診を受けられる方が増えてきている。	提携医の定期的な往診と緊急時の対応、入院のできる病院とも協定しており、従来のかかりつけ医への受診など、納得が得られた適切な医療を受けられるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されている。職員は日常の関わりの中で体調や表情の変化を細かく観察し変化の気付きがあればすぐに看護師に連絡報告し適切な医療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日頃の様子や状況など細かな情報を提供するようにしている。職員も見舞い状況を把握し、家族とも密に連絡を取り、早く退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りをしてほしいとの家族の要望がある。家族とも密に話し合い、何ができるか何を望んでいるのかなどスタッフや家族と共に共有し取り組んでいる。	家族からの要望や病院からの統一した書式への要請もあり、今年度「看取りに関する指針」を定め、同意を得ながら取り組んでいます。看護師が配属されており、提携医の応援もあり、家族とともに支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作り周知の徹底を図っている。全体会議でもとりあげ実践として行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3、6、9、12月に避難訓練を行っている。勉強会や実際の訓練を行い身につけている。また民生委員さんを通じて地域の方との協力体制を築いていく予定。	避難訓練・勉強会を実施し、民生委員を通じて地域への協力を依頼しています。消防署の出張出前講座では、地震・津波から身を守る最も効果的な予防法についてなど学んでいます。	いつどんな災害が襲ってくるか、いろんな想定で訓練を行い、話し合いを行い、地域と協力しながら、生活用品なども備えていかれることを、これからも期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時にはさりげないやさしい言葉やなじみの言葉をかけ、一人一人の思いを成し遂げるように対応している。	その人らしさが活かせるように、趣味・特技・楽しみを支援し、さりげない声かけや観察で思いを汲み取り、丁寧に対応しています。研修や報告で対人援助技術について学んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけをしている。言葉での意思表示が困難な時には表情やしぐさ、態度などで読み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるがその時の気持や体調に合わせている。 一人一人のペースで支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はなるべく自分で選んで着てもらっている。病院受診や外出する時にはこちらからアドバイスすることもあり納得できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立にも利用者の意見を聞いている。食材の皮むき等してもらい利用者に力を借りている。下膳やお膳拭きは積極的に手伝ってくれている。	献立に好みを活かし、できることを一緒に行いながら、家庭的で見た目にもおいしい食事を手作りしています。皆で囲むテーブルは会話も弾み、楽しいひとときとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態を把握している。量の加減やトロミなど状態の把握にも努めている。水分量も1日1200リットルは摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる人、介助が必要な人、見守りでいい人など状態に合わせてケアしている。毎食後に行っている人もいるが、夕食後にはは全員行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し記録している。自分で行けない人は2-3時間置きに誘導し、食事の前後にも声かけをしている。しぐさや行動にも目を向け失敗を減らすように支援している。	チェック表でパターンを把握し、しぐさや行動を察知して誘導し、紙パンツから布パンツに移行した入居者も多く、自立を支援しています(古い炊飯器でタオルを保温し、失禁時に利用するなどの工夫もみられます)。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防にヨーグルトや冷たい牛乳など飲むようにしている。便秘が続く場合には薬の力も借り負担にならないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の気分や体調などにも配慮し、失禁時を含め、臨機応変に対応している。湯温等の好みや順番等にも配慮し利用者の気持ちに合わせている。	一対一の対応を心がけており、ゆったりと対話しながら入浴を楽しめるよう援助しています。特殊浴(スロープインバス)も設置されており、重度の方の入浴支援も行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の気持ちに合わせてゆっくり休息できるようにしている。日中のリズムも考えながら支援している。ソファが自分の居場所となり気持ちよく眠っている人もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬内容については職員がわかるようにファイルしている。誤薬のないように職員同士で確認し最後まで飲めたかどうか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを見つけ、趣味などを生かし力を発揮してもらっている。してもらった時には有難うの感謝の言葉を添えている。ホールの飾りや食事介助など。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少しでも外出できるように支援している。身体的にも重度化しており、外出の機会が減ってきている。常日頃より利用者とコミュニケーションをとり外出できるように支援している。地域の盆踊りに参加した。	高齢や体調の変化で遠出の機会が減少してきておりその日の希望に添うことがなかなか難しくなってきたが、すぐ近くの公園への散歩・通院・各種行事への参加などで出かけるほか、家族とも協力して、少しでも外出できるよう支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所管理は行っていないが、自分で所持されている方もいる。買い物や病院受診をした時には支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を通じて家族からかかってきたり手紙のやり取りでポストに投函したりするなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり室温調節にも配慮している。台所の上においや音により生活感を感じてもらえるようにしている。ホールで皆の顔が見えるように配置し安心感を持てるようにしている。	室内は清掃・温度・湿度・採光などの環境整備が行き届き、厨房からリビングやトイレがよく見えるような造りになっています。季節飾り・写真・折り紙や習字(毎日の献立)など入居者の作品が貼られ、ゆったりと落ち着いて過ごせるように工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お気に入りのソファや気の合った者同士で座れるように机や椅子の配置にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた机や布団やテレビなどを持ってきてもらい居心地よく過ごせるようにしている。自分で折った折り紙やパズルを飾り楽しみ工夫している。	室内は広く、時には家族が泊まることもあり、大きな収納庫が備えられ、使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、自由に配置・飾りつけをして、その人らしい個性が活かされた、居心地の良い空間となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけたり、滑らないようにマットを配置したりしている。		